

泌乳ステージに応じた乳牛への飼料用粳米多給技術の確立

(現 状)

- 低い飼料自給率(海外に依存)
- 飼料価格の長期的な上昇、高止まり
- 飼料用米の利用状況
酪農家数 28戸、うち利用農家 5戸
- 粳米と玄米との比較

	粳 米	玄 米
コスト	○	△要籾すり・乾燥
保存性	○	×要冷蔵
栄養価	△籾穀に栄養なし	○トモロコシと同等
その他	反芻刺激効果 牛の胃に負担をかけにくい？	

※ 玄米試験での飼料費低減：10%

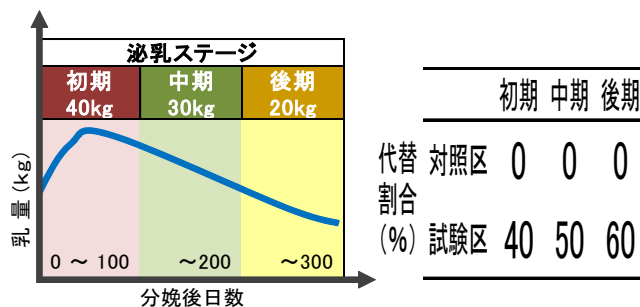
- 酪農家の粳米による低コスト化への期待は大きい。
- 粳米の嗜好性や栄養価のデータを求めている。

(課 題)

- 低コスト化が図られる乳牛への粳米多給技術の確立が必要
- 栄養価などの不安を解消するため、粳米給与による消化性の解明が必要

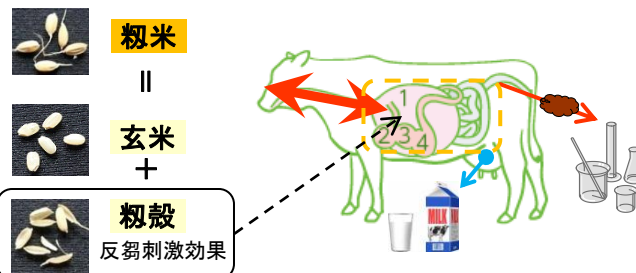
(研究内容)

- ①泌乳ステージに応じた粳米多給技術の試験
 - 各泌乳ステージの乳量に応じた粳米代替割合(40-60%)を設定
 - ⇒ 粳米の多給が乳生産性などに及ぼす影響の検討



- ②粳米給与が飼料の消化性に与える影響の試験

- 反芻行動や第1胃内発酵への影響調査
- 消化試験による飼料消化率の調査
- ⇒ 粳米の反芻刺激効果が飼料の消化性に及ぼす影響の検討



(研究目標)

- 濃厚飼料の粳米代替率:50%
- 飼料費の低減:15%
- 粳米の消化特性の解明

(期待される成果)

- 飼料用米利用農家の増加
H23 H24 H25
(4戸 → 5戸 → 8戸 → 16戸)
- 水田有効利用の増加(酪農)
H23 H24 H25
(6ha → 29ha → 33ha → 136ha)
- 県産飼料を利用した
安全安心な牛乳生産

